

本人視点に基づく認知症施策

スターチスの花言葉

「変わらぬ心」

「途絶えぬ記憶」

「永久不変」



御坊市総務部危機管理課 谷口泰之

あなたは今、自分が暮らすまちで
安心して認知症になれますか？

「空白の期間」という言葉の意味

これまでの暮らしをなるべく継続できるように必要な支援を早期につなぐことが重要。

ある本人の言葉

認知症と診断されて行政や地域包括支援センターに相談したけど、みんな介護保険の話ばかり。そんなことを知りたくて相談したのではなく、どうすればなるべくこれまで通り過ごせるか知りたかった。

共生社会の実現を推進するための認知症基本法

目指す方向・目的

「本人が希望と尊厳を持って暮らすことができる共生社会の実現」

基本的人権を明記

→全ての施策・取り組みは人権ベースで推進・展開

※意思決定・意向表明（本人発信）、参画等

認知症の人たちが思う
「やさしい」は何なのか？

認知症サポーターが
たくさんいるまち？

チームオレンジが
あるまち？

認知症にやさしいまち
って、どんなまち？

誰も見守って
くれるまち？

早期発見が
できるまち？

失敗しないように努力してるんやけど、
失敗しても気にせんでええ地域になって
ほしい。
だって、認知症じゃない人も失敗するん
やから。

御坊市在住 79歳男性

90歳を過ぎたからといって見捨てないで！

90年を生きてきた私だからこそできること
ってあると思うの。

御坊市在住 91歳女性

本人を「客観的」情報だけで
見ていないか？

ある認知症の本人の言葉

「認知症の人を守る」と
いいながら、私たちは
「当たり前」と「
さえも奪われました。

良かれと
思って...

認知症と診断された途端に

お金を管理してあげる → 好きなものが買えない

電話、インターホンは出ない → 他者との分断

外出は控えて → 閉じ込めり

刃物で怪我しないように → 調理ができない

これまで“普通”にしていたのに・・・

もう、何もできないと自信がなくなる

©御坊市

認知症の人が失敗しないように、と支援者は配慮して、先まわりをして色々としてくれる。
でも、それは、本人の「失敗する機会」を奪い、
その失敗から生まれる「成功する機会」も奪っていることになるんだ。

仙台市 丹野智文さん

たとえば・・・

失敗体験

トースターでパンを焦がしてしまった・・・

これ、
リスク??

失敗から考える

焦がさないようにトースターから目を離さない！

成功体験！

焦がさずにおいしく焼けた！

御坊市の取り組みについて

市の概要

2025.04.01時点



和歌山県御坊市は、紀伊半島西側、南北の中央に位置し、年間通して温暖な気候で農産業が盛ん。特にスターチスやスイートピーは全国屈指の出荷量であり、「花のまちごぼう」としてPRしている。

総人口	20,903人
65歳以上人口	6,996人
高齢化率	33.5%
日常生活圏域	6圏域
面積	43.9km ²
認知症地域支援推進員	10人
要介護認定者数	1,762人
地域包括支援センター	直営1

御坊市の認知症施策への考え方

本人の声に耳を傾け、本人の視点に立ち、
本人とともにこれからの暮らしを考える。
その先に、認知症になっても自分らしく暮
らせるまちをつくるのために、多くの仲間
(本人含め) と地域づくりに取り組む。

本人視点の重視

御坊市認知症の人とともに築く 総活躍のまち条例

平成31年4月1日施行

条例の理念

市、市民、事業者及び関係機関は、次に掲げる基本理念に基づき、認知症の人が暮らしやすいまちづくりを推進するものとする。

①自分らしく

認知症になってからも希望と尊厳を保持し、自分らしい暮らしができること。

②いつまでも挑戦

認知症の人がその意思によりできることを安心かつ安全に行え、いつまでも新たなことに挑戦できること。

③それぞれが活躍

認知症の有無にかかわらず、全ての市民が暮らしやすいまちとなるためにそれぞれが活躍できること。

条例の基本理念を具現化するために

認知症施策推進基本計画

7つの指針

条例の基本理念を実現し、認知症の人もそうでない人も住み慣れた地域で希望を持って暮らすことができるために、認知症施策推進基本計画で7つの指針を示す。

最重要！

- ① 認知症・認知症の人への先入観の払拭
- ② 認知症の人を起点とした地域協働による「よりよい暮らし」の実現
- ③ 認知症の人にとっての暮らしやすさの向上（さまざまなバリアの解消）
- ④ 地域ぐるみの暮らしの支え合いの質の確保と向上
- ⑤ アクションプラン実施のためのフォーメーションづくり
- ⑥ 市民にわかりやすい情報発信
- ⑦ 柔軟な評価と実践

①認知症・認知症の人への先入観の払拭

先入観が払拭できれば
各取り組みが進展する

各取り組みが進展すれば
先入観が払拭できる

- ②認知症の人を起点とした地域協働による「よりよい暮らし」の実現
- ③認知症の人にとっての暮らしやすさの向上（さまざまなバリアの解消）
- ④地域ぐるみの暮らしの支え合いの質の確保と向上
- ⑤アクションプラン実施のためのフォーメーションづくり
- ⑥市民にわかりやすい情報発信
- ⑦柔軟な評価と実践

ある認知症の本人の言葉

認知症の人にとって

1番のバリアは

「 」なんだ



市役所公用車のブレーキランプ交換作業

同行した施設職員

市役所からブレーキランプ取り替えの依頼があったとき、正直無理だと思いました。でも、本人の作業している姿を見て、胸が熱くなりました。

本人が諦めているのではなく
周囲が諦める環境をつくっていないか

事例

買い物に関する 本人の気持ち

買い物での本人の気持ち

毎日買い物に行っているが、
いつもお札で支払い。
自宅には小銭がいっぱい。

レジで小銭を使えるように
店員が配慮するほうがいい？
「スローレジ」の設置??

本人は・・・

「後ろの人に迷惑かけるから」

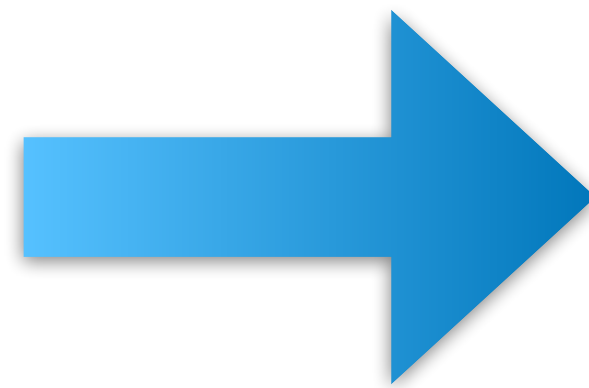
「(レジ等) そんなことされたら恥ずかしいよ」



「恥ずかしいと思わない」 社会の実現が先か

今の本人の気持ちを優先か

本人の視点抜きに、まちづくりを先走ると
本人の自尊心を傷つけてしまうかもしれない



宅配弁当利用時に、小銭で支払い
本人：小銭を消費 宅配業者：お釣りの用意不要

課題として捉えるのではなく・・・
自宅に小銭がたくさんあることが強みになる！

事例

本人の力が
家族の気持ちを変える

家族から「在宅限界」との相談から・・・

認知症とアルコール依存があり、家族が在宅での介護に限界を感じ包括へ相談。

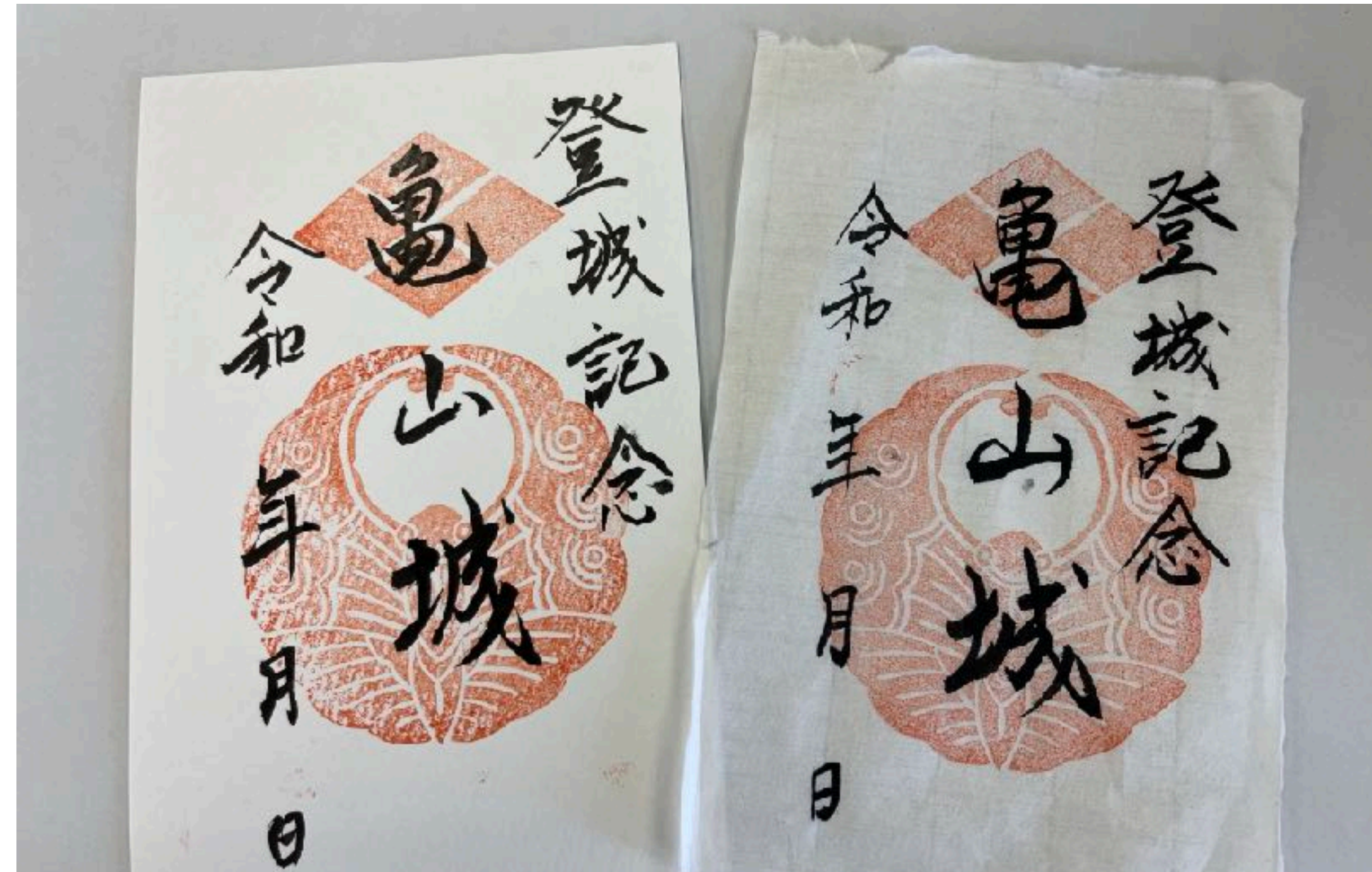
自宅へ行くと、本人のすごい力を発見！
書道が得意で、退職後、某有名寺で御朱印を書く仕事をされていたとのこと。

この力を地域につなげたい！



自宅に大迫力な掛け軸！

市職員の趣味とコラボ



力強い字で御城印を作成！

家紋印は包括職員が消しゴムハンコで作成

職員の「御城印集め」の趣味からヒントを得て、地元の山城のオリジナル御城印を作成できないか？と本人と相談。健康づくり促進のため山登りの企画とともに。さらに防災ともコラボ！？

家族の気持ちの変化

家族は在宅の限界を感じ、施設も検討していた。

デイサービスを利用し始め、推進員やケアマネジャー等の支援も受け、自分らしく活躍する本人を見て「父の活躍が他の認知症の方の希望になるなら」と顔出しと氏名公表の承諾をしてくれた！



デイサービスで御城印を作成し活躍

本人の活躍が先入観を払拭し家族の気持ちを変えた！

市の希望大使に任命

認知症になってからも、自分らしく希望を持って暮らしている姿を発信する「あがらの総活躍希望大使」(御坊市版認知症希望大使)に任命された。

「人生の途中で新たな花を咲かせたような気持ち」と本人が任命された気持ちを話された。



事例

スーパー銭湯の ボトル

ごぼうホッとサロン🔥

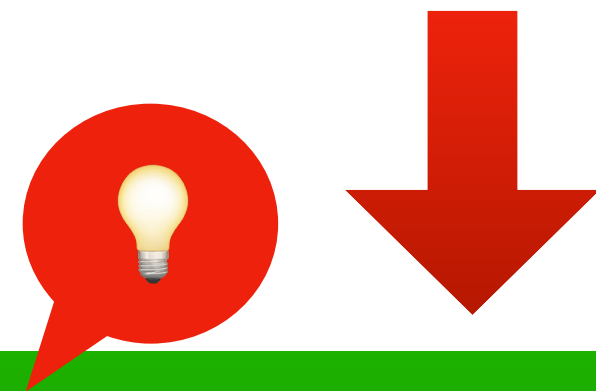
スーパー銭湯の事業者とともに本人が交流できる場を



本人が気づき、そして活躍！

●本人が銭湯で

「シャンプーとか石鹸(ボディソープ)とか、どれがどれなのかわからへん。もっとわかりやすく"頭"、"体"、
みたいに書いてくれたら、間違わへんと思うよ」



その声を聞いた市職員が銭湯に伝える

●銭湯側

「実は、スタッフ間でも、お客様が容器を間違っているのを見て何か解決策がないのかと話していたのです。貴重なご意見ありがとうございます！」

目を凝らしてよく見ないと間違ってしまう



子どもから大人までわかりやすく！



スーパー銭湯動画

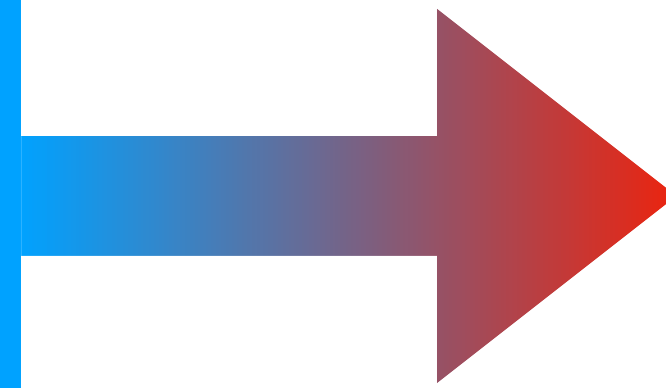
間違う人が激減！

認知症の人の視点から、**ユニバーサルデザイン**に！

©御坊市

「希望」や「思い」
それは、認知症の人も
そうでない人も
誰もが持っていること

絶望の悪循環



希望の良循環

「希望の良循環」は暮らしを知ることから

認知症の人の暮らしは、福祉サービス
だけが接点ではない。

これまでの暮らしと、これからの暮らし
に明確な境界線はいらない。

高齢者や認知症の人たちは
やさしさだけを求めているわけではない

私たち抜きに私たちのことを
決めないで！

認知症施策に取り組む行政職員としての意識

私たちは「中立公平」という視点から、1人の人の声を聞いたり支援をすることは「不公平だ」と言われることがあります。

でも、1人の人を支援しないということは、**誰1人支援できない**ことになります。

1人の関わりから出てきた課題は、多くの市民が抱えている課題かもしれません。

それを**市民全体で共有することが「公平」**に繋がると 생각합니다。

支援者の満足に陥らないように

チームオレンジは支援者のためのチームではない

チーム“本人”となるように